

学校評価シート

実学ひとすじ、好きを未来につなげよう

建学の精神 「実学尊重、創意工夫」

達成度評価 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：方策の見直し

1. 学校運営目標

(1) 歴史と伝統の下で培った学校力で、人づくりの明成力を発信

(2) 目と手をかける指導で、社会の要請に応える学校づくり

科 コース	具体的目 標	年 度 当 初			最 終 評 価		
		項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
調 理 科	(1) 学びの姿勢の確立及び基礎学力の定着と向上	調理師養成の面から学習意欲を喚起させる。	学びに対する意識が高い。	教室などの学習環境を整え、自発的かつ真剣に授業に臨む姿勢を指導し続ける。	授業に臨む姿勢は感じ取れたが、その姿勢が通年を通して持続できたかについては少々疑問が残った。	C	時間の経過とともに慣れてくるところで確認させる指導を継続していくことが肝要と考える。
	(2) 規律ある生活態度の育成と問題行動ゼロへの取組み	問題行動の予見と、牽制を続ける。	個々の生徒に応じて速やかな対応を心がけている。	指導対象の事例をHRや集会で繰り返し呼びかけ、常に生徒とコミュニケーションを取り続ける。	1学期はそれほどでもなかったが、2学期以降は問題行動やトラブルが相次ぎ、その対応に追われる日々が続いた。	C	日々の生徒とのコミュニケーションが時間の経過とともに薄らいでいくところで、引き締めを図る指導を継続していくことが肝要と考える。
	(3) 豊かな人間性や健康な体を育成するための生徒の活動	専門教育を通し、健全な生活リズムや社会適応力を構築する。	調理師免許取得という当面の目標を持つ生徒が多数いる。	免許関係科目の授業の中で、社会が求める人物像とその在り方・生き方を具体化させる。	調理師免許取得で満足しがちな部分があり、「食」を通しての人格形成や社会適応能力の育成とまでは中々いかなかった。	B	各科目担当が生徒の将来に有益な授業内容であることを認識させることが、始めの一步と考える。
	(4) 進路達成100%を目指すキャリア教育の推進	進路に関する情報提供と事前実践。	進学希望4割、就職希望6割、進路希望の生徒は栄養士関係、就職希望の生徒は調理関係が多い。	小論文、一般常識、履歴書、面接の指導を1、2年生からHRなどを通して実践し3年生に繋げる。	現実を知らず妄想的な所を打破させるよう具体的な進路に関する数字を提供し続け、どのような進路でも対応できるように指導した。	B	数字上の結果で言えば現状と同じであるが、就職に関して厳しい世の中に敢えて飛び込む覚悟を持たせられる内容の検討が必要と考える。
	(5) 募集定員充足のための学科・コースの工夫改善	学科の価値観の見直し。	自分の学力や将来像を固定しすぎて進路の幅を狭めている生徒がいる。	折に触れて、さまざまな進路選択の可能性を提示していく。	今年も定員120名の確保に見通しがつき、学校経営に大きく貢献した。	A	全生徒の約30%は調理科の生徒である現実を鑑み、現在の状況より充実した体制が整うかで継続的に安定した定員確保が見込めると考える。
	(6) 安全・安心な学校生活のための防災意識の啓発	危険行為の認識と周囲への気配り。	特に窓側からの転落の危険性が大きく、声かけだけでは限界がある。	現段階では声かけと生徒同士がお互いに気を付けるように、日頃より指導していく。	学習環境の整備と兼ねて、有事の際に避難が困難な状況にならないよう指導に努めた。	A	構造上の抜本的な改善は学校経営に直結するので、そちらからのアプローチも必要と考える。

1. 学校運営目標

(1) 歴史と伝統の下で培った学校力で、人づくりの明成力を発信

(2) 目と手をかける指導で、社会の要請に応える学校づくり

科 コース	具体的目 標	年 度 当 初			最 終 評 価		
		項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
介護福祉科	(1) 学びの姿勢の確立及び基礎学力の定着と向上	はじめある生活と授業規律の徹底を図る。	資格取得の意識は高く、実習等で力を発揮する生徒が多い。一方、学習に対する苦手意識のある生徒もおり、学習の理解には個人差が見られる。	放課後の学習会を定期的実施する。学習の苦手な生徒に対しては、教科担当者の協力を得ながら個別対応を強化する。	放課後の国家試験対策は2、3年生で実施した。ほとんどの生徒が目標に向け積極的に取り組んだ。また、介護実習中に行われた授業のノート写しをはじめ、定期考査前には自主的に放課後学習を実施した生徒が多く見られた。また、先輩の影響を受け、福祉住環境コーディネーター等の資格取得を目指す生徒も見られた。	A	・先輩が頑張っている姿を意識的に見せていくことが、後輩の意識向上にもつながるので、掲示板や科通信を通して、生徒の頑張りを伝えていくよう配慮したい。 ・学習の苦手な生徒に対しては、教員側から指示しなければ学習できない傾向があるので、意識的に働きかけていきたい。
	(2) 規律ある生活態度の育成と問題行動ゼロへの取り組み	社会や学校のルールを守り、問題行動・退学者をなくす。	身だしなみや挨拶について徹底しているが、ルールが守られずに注意を受ける生徒が見られる。	TPOに応じて生徒自らが積極的に行動できるよう指導する。	授業だけでなく、職員室での対応、介護実習中における取り組み等、多くの場面でルールの大切さを指導してきたが、まだまだ甘い考えも見られる。その都度、丁寧に指導した。	D	ただ注意をするのではなく、「なぜ、そうしなければならないのか」を生徒達にしっかりと納得させるよう、指導する必要がある。その場しのぎではなく、常にルールを守ることの必要性を指導したい。
	(3) 豊かな人間性や健康な体を育成するための生徒の活動	人との関わりを通して、心豊かな人間性を養う。	元気な挨拶ができるようになったが、コミュニケーションを苦手とする生徒もおり、相手の気持ちを理解することが必要である実習において苦労している場面が見られる。	挨拶を徹底させる。また、科集会等で発表の場面を設けたり、ロールプレイ等により体験の共有を図り、より多くの情報を提供し合う機会をつくる。	授業の一部で3年生による授業を取り入れたり、科の掲示板を利用して先輩や後輩へのメッセージを書くなど、他学年との交わりができるようにした。例年になく先輩・後輩とのつながりが強く見られるようになった。また、グループ演習の際には、普段あまり関わらない生徒同士がグループを作るようにし、多くの人と関わるよう配慮した。	B	先輩、後輩のつながりができるよう、さらに配慮していきたい。
	(4) 進路達成100%を目指すキャリア教育の推進	福祉関連資格を取得する。	介護職の求人数は多く就職内定率は高いが、即戦力が求められている。	介護実習やボランティア活動を積極的に行わせて、できるだけ多くの経験を積ませる。また、実習から就職へつながるよう実習先と連携を図る。	一人一人の能力等を見極め、進路選択については慎重に話し合った。また、担任を中心に何度も面接等の練習を重ね、多くの生徒が合格している。介護職は依然高い決定率であり、新たな資格取得へ目を向け、医療・福祉分野へ進学する生徒も多かった。	A	生徒の希望を最大限尊重するが、進路選択に当たっては自己の能力を加味しながら、適切に選択できるようにしたい。
	(5) 募集定員充足のための学科・コースの工夫改善	介護職の需要の高さと資格の特性について周知させる。	介護福祉科の存在について少しは理解されるようになったと思うが、2つのコースの違い（特に資格の違い）については、まだ十分理解されているとは言えない。	国家試験合格率8割を目指し、介護職の現状と就職内定率についてさらに宣伝を強化する。また、法改正に伴う本校の対応について、早急に取り組む。	例年に比べ介護福祉科への問い合わせや学校見学が多く、ようやく科の存在が浸透しつつあると言えるが、具体的な資格の違いについてはまだ十分理解されていない様子が見られた。	B	制度が大きく変わったことで、介護実習の有無をはじめコースの違いがより顕著となったので、中学生がわかりやすい表現による科の説明を考える必要がある。
	(6) 安全・安心な学校生活のための防災意識の啓発	身の回りの環境整備及び感染症等に対する健康管理を徹底させる。	リスクマネジメントについて学ぶ機会が多く、事故や感染症等に対する危機意識を持たせている。	日常生活における、様々なリスク（自然災害、事故、感染症等）について、家庭や学校、地域など幅広く捉えることができるよう配慮する。	健康面に関しての危機意識は高く、自ら予防を心がける生徒が多く見られた。今年度も集団でのインフルエンザ予防接種を実施した。また、介護実習を通して身の回りの危険に対して多くを学ぶことができた。	A	特に健康の自己管理をしっかりさせていきたい。

学校評価シート

1. 学校運営目標

(1) 歴史と伝統の下で培った学校力で、人づくりの明成力を発信

(2) 目と手をかける指導で、社会の要請に応える学校づくり

科 コース	具体的目 標	年 度 当 初			最 終 評 価		
		項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
普 通 科 情 報 表 現 コ ー ス	(1) 学びの姿勢の確立及び基礎学力の定着と向上	知識や技術の向上と資格取得	具体的な指示に素直に従い、向上心が見られる。学習面では基礎基本の繰り返しが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時に教科書、ノートの準備ができていることを徹底させる。 各教科での平常点を確保させる。 家庭学習課題を毎日実施する。 昼休み、放課後、長期休業を利用した勉強会を実施する。 定期考査の準備学習を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習課題は3年目で、コースに定着した。英語は学年毎の問題、国語・情報は検定用、数学基礎計算、一般常識問題とした。学習内容を定着させるために確認テストなど検証する機会が必要である。 夏休みを利用して基礎数学、ITパスポートの勉強会を実施した。 授業準備・態度についてはもう一歩引き締めたい。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 始業時準備を徹底させる。 家庭学習課題が進路学習に直結するように傾向を合わせたものにする。 夏休みの勉強会の形を整える。
	(2) 規律ある生活態度の育成と問題行動ゼロへの取組み	基本的生活習慣の確立	高校生としてのルールやマナーは概ね理解できているが、身だしなみで注意を受ける生徒がいる。年度前半において携帯電話の利用に関して指導する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 日常的挨拶、職員室入室時挨拶を日々指導する。 提出物の締め切りを守らせる。 身だしなみ指導を毎月最終週に実施する。 問題行動について具体的に考える機会を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員室入退室についてコース全体で指導に当たった。 身だしなみ指導で指摘される生徒数は回を重ねるごとに減っている。指摘された生徒は素直に指導に従った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> SNSに絡んだトラブルを未然に防止するため、年度の前半で講習会を実施する。
	(3) 豊かな人間性や健康な体を育成するための生徒の活動	豊かな表現力、個性や感性を伸ばすための心身の健康	共通の趣味、同じ価値観をもつ集団のなかで、学年が進むにつれコミュニケーション能力が向上しているが、外に向けて発信するエネルギーが十分とは言えない。集団行動や人間関係の調整が苦手な生徒も見受けられる。	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や検定前に「プレ行事」を実施し、参加意識を高める。 部活動に全員登録させ、学年コースを越えた交流の機会を与える。 HRにおいて一人一役を与え、責任感を持たせる。 各人の持つパソコンの技術を活用させ、自己有用感を育む。 保健室・相談室との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> プレ行事としてプレ検定、プレ運動会を実施した。プレ検定は本番前チェックとして意識づけに役立った。プレ運動会はコースでの縦のつながりを経験する好機であった。 生徒の作品をコース紹介リーフレットやポスターに採用した。 コース学習成果発表会では1～3年の作品を披露しあい、よい刺激となった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 作品発表・掲示を増やし、自己表現の機会を多く与える。 ボランティアは時期が合わず頓挫したので、優先事項とする。
	(4) 進路達成100%を目指すキャリア教育の推進	自己表現のための社会体験・貢献	情報分野での進路を早々に決める生徒がいる一方で、情報収集力・自己開拓力が不足していたり、社会体験が少なく早期の進路決定が困難な生徒もいる。	<ul style="list-style-type: none"> 「資格マップ」を掲示し、いつまでに何をとるかを明確にする。 各自に検定・進路スケジュール管理表を作成させる。 学校見学、職場見学、ボランティアの機会を多く設ける。 初期段階での情報提供を厚くする。 仙台大学への進学道の筋を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格マップに基づいて検定をもれなく受験させ、試験直前には情報系の授業で担当を決めて対策に当たった。結果として1・2級合格者数が増加した。 進路指導では3年生の教科指導、面接指導、作文指導をコース教員総動員で行った。ほぼ全員が進路を決定した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年作成した進路ノートを次年度に引き継ぐ。 仙台大とのつながりを意識を強めるため、情報の発信・出前授業を行なう。
	(5) 募集定員充足のための学科・コースの工夫改善	生徒募集	2クラス編成に向けて、女子の割合を増やしたい。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習成果を発信する場としてオープンスクール、学園祭、学校説明会、ホームページを活用する。 各種コンテストへの参加を積極的にし、目に触れる回数を増やす。 女子中学生のニーズをリサーチするためのアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会では、生徒の作品や授業内容をパワーポイントで視覚化した。 オープンスクールでは模擬授業の内容をUSBに収め、記念品として贈った。 リーフレットにQRコードをつけ、コースHPへの直接アクセスを可能にした。 コンテスト、競技会ではできるだけ多くの生徒を参加させた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新回数を増やし、コースの様子を細かく伝える。 情報を希望する中学生にはメールでコースの様子を知らせるなど、つながりを保つ。 中学校時P検合格者、入学後成績優秀者、検定上級合格者を奨学生の対象としたい。
	(6) 安全・安心な学校生活のための防災意識の啓発	安全な実習環境、安心な居場所の確保	1年は1クラスの人数が多いため、パソコンの熱により、室温が上昇しやすい。3.11震災による被害が時間の経過とともに風化される傾向にある。	<ul style="list-style-type: none"> 分散させたコンセントの利用者を明確にする配線図を作成する。 教室の換気に留意する。 3.11震災の経験に基づく連絡・帰宅ルートの確認を常に意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> コンセント利用はトラブルなく生活できていた。カーペット敷きの教室は毎週金曜日に掃除機をかけ、衛生に努めた。 避難時安全確保のため、机周りの整頓を心掛けた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> カーペット敷きの教室はスチームモップをかけられるようにしたい。

学校評価シート

実学ひとすじ、好きを未来につなげよう

建学の精神 「実学尊重、創意工夫」

達成度評価 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：方策の見直し

1. 学校運営目標

(1) 歴史と伝統の下で培った学校力で、人づくりの明成力を発信

(2) 目と手をかける指導で、社会の要請に応える学校づくり

科 コース	具体的目 標	年 度 当 初			最 終 評 価		
		項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
普通科 デザイン アート コース	(1) 学びの姿勢の確立及び基礎学力の定着と向上	知識や技術の向上と資格取得	生徒は向上心を持ち、先見性、高い専門性を磨いている。資格取得のために積極的に取り組もうと努力しているが、修得が課題となる生徒もいる。	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識をもたせ、学ぼうとする意欲を高める。全ての教科の単位修得を目指させ学習を徹底させる。 放課後、長期休業などを有効活用し、専門科目の充実と資格取得の目標を達成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習課題（国、数、英、社）を毎日実施した。点検時の声掛けにより消極的だった生徒も取り組むようになった。 上級資格取得に熱心に取り組む色彩3級9名、被服1級5名、トレース1級3名、2級4名、レタリング2級3名合格した。また、トレース検定で優秀賞、努力賞、レタリング検定で団体優秀賞を受賞した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対する取り組みが良くなってきたので、今後も生徒への声掛けを多し実施したい。 それぞれの資格に対して個々の目標を明確にし、資格取得に向けての指導を強化したい。
	(2) 規律ある生活態度の育成と問題行動ゼロへの取り組み	基本的な生活習慣の確立	高校生としてのルールやマナーを十分体得し、社会へのステップとして規範意識を形成する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ルールやマナーを徹底させる。身だしなみ指導、遅刻指導を定期的にする。保護者との連絡を密にする。 学習環境の整理を徹底させる。清掃の徹底美化、整理整頓をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ、遅刻指導は定期的を実施した。ほとんどの生徒がルールを守っており大きな問題はなかった。保護者との連絡体制もよく、段階的に指導ができた。不登校だった生徒も改善されたケースが多い。 学習係、美化係の生徒を中心に良い学習環境作りに積極的に取り組ませた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度と同様に計画的に対応や実施をしたい。未然防止の徹底を引き続き心がけた指導を実施したい。 今後も保護者の協力を得ながら、生活習慣の育成に努めていきたい。
	(3) 豊かな人間性や健康な体を育成するための生徒の活動	豊かな表現力、個性や感性を伸ばすための心身の健康	物事を考え過ぎて対人関係がうまくいかず集団行動などで悩んでいる生徒がいるが、いろいろな場面で活躍する生徒も増えてきている。	<ul style="list-style-type: none"> 専門技術の習得、豊かな感受性を育て作品制作の喜びと達成感を味わわせる。積極的に行事等に参加するように指導する。 相談室、保健室、保護者との連携をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術館、博物館等の校外学習を通して意欲や向上心を高めた。制作した作品を校内、校外でショーや作品展示の形式で発表できた。コースの縦割り活動、行事の充実、喜びと達成感が得られた。 欠席の多い生徒には、相談室、保健室の協力のもと指導ができた。保護者も協力的であった。 	A	今年度と同様に計画的に実施し、より良い作品制作ができるように工夫していきたい。
	(4) 進路達成100%を目指すキャリア教育の推進	自己表現のための社会体験・貢献	進路選択にあたり自己開拓力が不足していたり、社会体験が少なく、早期の進路決定が困難な状況にある。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と担任または担当教員との二者面談を多くする。また、保護者との連絡を重視し、必要に応じた話題提供をする。 学校見学や体験学習を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定に向けて、情報提供や二者面談を実施したが、就職希望者にとっては厳しい結果になった。自己開拓で活動している生徒が内定となった。 進学希望者には、学校見学会に参加するように声掛けをした。合格者は、全員積極的に見学会に参加し進路を決めていた。（九州、東京あり） 	C	<ul style="list-style-type: none"> 就職に関しては、本人の適性に基づいた企業の選択を図りたい。自己開拓を希望（デザイン、服飾関係）している生徒がいるので、就職した先輩がどんな就職先に就いているか調べ参考にして考えさせた。 1年次から意識づけできるような計画を模索して実施したい。
	(5) 募集定員充足のための学科・コースの工夫改善	生徒募集	昨年比で大幅な減少はないが、目標人数に達していない。	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール、学園祭、デザインアート展、学校説明会でコースの魅力が十分伝わるような題材を考える。 校外での作品発表を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> コースの取り組みや魅力が伝えられるような作品制作を行った。オープンスクールでは、在校生の作品を活用しながら優しく説明し、中学生に評判が良かった。デザインアート展も作品の出展数が多かった。 校内、校外での発表は、生徒が積極的に参加しており良かった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度と同様の指導を実施したい。 デザイン展を通して中学校の美術教員との連携をとりながら、募集につなげていきたい。
	(6) 安全・安心な学校生活のための防災意識の啓発	安全な実習環境、安心な居場所の確保	震災の後遺症や工事等による震動、騒音による不安や精神的な悩みが今後出るのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> 施設環境面では、災害が発生した場合の敏速な対応を身につけさせる。 心のケアの面では、随時面談を多くし、相談しやすい環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室内、机の周りの整理整頓に心がけた。 工事等による震動で頭痛や体調不良を訴えていた生徒がいたが、工事の時間帯を考慮していただいたので大きな問題はなかった。体調不良や心のケアを含め声掛けをした。 	A	今年度と同様に生徒一人ひとりに声掛けをして良い環境作りをしたい。

学校評価シート

実学ひとすじ、好きを未来につなげよう

建学の精神 「実学尊重、創意工夫」

達成度評価 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：方策の見直し

1. 学校運営目標

(1) 歴史と伝統の下で培った学校力で、人づくりの明成力を発信

(2) 目と手をかける指導で、社会の要請に応える学校づくり

科 コース	具体的目 標	年 度 当 初			最 終 評 価		
		項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
普 通 科 総 合 コ ー ス	(1) 学びの姿勢の確立及び基礎学力の定着と向上	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識の高揚 学習意欲の向上と習慣づけ 	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲に差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 合格者を紹介し、資格取得の奨励を図る。 学習規律指導を徹底する。 欠時を把握し、早い時期に指導をする。 進路指導との結びつきを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得者のコース通信での紹介と廊下に掲示した。 特に1年生において学習状況の調査と情報交換を実施した。 欠時と欠点については担当の先生と連絡を密にし、早期把握と指導に努めた。 3年生では進路指導室との連絡を密にした。 	C	生徒向けの案内プリント配布を何度も実施するなど資格に対する意識を高め、合格者を増やす取り組みが必要である。
	(2) 規律ある生活態度の育成と問題行動ゼロへの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携 生徒理解 	<ul style="list-style-type: none"> 環境、価値感など多様な生徒と保護者が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導との結びつき強化を図る。 日常的な関わりにより信頼関係を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> コース集会などで進路とからめて学校生活を考えさせた。 保護者との連絡を密にして身だしなみも含めた基本的生活習慣の確立を目指した。 個人面談を多く実施し生徒理解と信頼関係を深めた。 	C	保護者と連絡を密にし、生徒理解を深め、粘り強く指導することが大切である。
	(3) 豊かな人間性や健康な体を育成するための生徒の活動	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習の活用 生徒会行事とコース行事の活発化 部活動の活発化 	<ul style="list-style-type: none"> 行事に積極的に取り組んでいる。 各学年で校外学習を実施している。 部活動加入が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> より積極的に行事に取り組めるよう工夫する。 校外学習を増やし、教科との協力体制づくりを図る。 部活動参加を奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の目的・意義の明確化と学年毎の系統的な分析確認を行った。 1年生の校外学習と2年生の修学旅行は生徒の自主的な活動を重視した。 学校生活の基本はホームルームであることを確認した。 	B	行事は学校教育において重要なものとして、より活発にしたい。
	(4) 進路達成100%を目指すキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上 系統的な進路指導計画 	<ul style="list-style-type: none"> 進路に対しての意識が弱い生徒がおり、早めの目標設定が必要である。 早めの目標設定が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「進路ガイドブック」を活用する。 SPIを購入し、学習指導を行う。 インターンシップやオープンキャンパスなど積極的に参加するように働きかける。 作文小論文指導を計画、実践する。 適性を配慮した進路指導を行う。 生徒、保護者へ適切な進路情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生ではLHRを活用し、年間計画を立てて実施した。 2年生ではガイドブックを活用し各種進路に関する行事に積極的に参加させた。 3年生では4月から個人面談を実施し、早めに目標を設定させた。またコースとしても面接指導を分担して実施した。 	B	早めの意識付けと、諦めさせない声かけが大切である。
	(5) 募集定員充足のための学科・コースの工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> きめ細かな指導と保護者との協力体制 卒業後の進路保障 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒保護者のアンケートも参考にし、来年度入学者からカリキュラムを変更する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒保護者アンケートの継続実施 地域への教育活動の情宣 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに新入生の保護者にアンケート実施した。 オープンスクールを活用した。 	B	保護者アンケートは今後も実施したい。
	(6) 安全・安心な学校生活のための防災意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な意識づくり 	<ul style="list-style-type: none"> コース集会で実施している。 昨年度修学旅行において平和教育と結びつけて実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> コース集会などでの講話の時間を設ける。 修学旅行を通して平和、震災、原発を考えさせる。 ボランティア活動を奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> コース集会を活用した。 修学旅行を通して実施した。 東日本大震災を通じた防災教育を継続したい。 	B	ボランティア活動を実施したい。

学校評価シート

実学ひとすじ、好きを未来につなげよう

建学の精神 「実学尊重、創意工夫」

達成度評価 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：方策の見直し

1. 学校運営目標

(1) 歴史と伝統の下で培った学校力で、人づくりの明成力を発信

(2) 目と手をかける指導で、社会の要請に応える学校づくり

科 コース	具体的目 標	年 度 当 初			最 終 評 価		
		項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
普通科 健康ス ポーツ コース	(1) 学びの姿勢の確立及び基礎学力の定着と向上	基礎学力の定着と学習段階に応じた目標の設定	進学を9割の生徒が志望している。部活動との両立を図りながら学業へ取り組む姿が見られる。	進学・就職ともに進路志望に応じた学習目標を設定し、これまでよりも学習段階を細分化した指導内容の工夫を行う。	今年度は新たにスコア型英語検定 GTEC を英語科と連携のもと全員に取り組みさせた。学習段階の高い生徒には特に有効であり、学習に対する意欲にも効果的である。また苦手な生徒においてもスコア型の利点を活かし、継続指導に役立てることができる。	C	依然として定期考査において複数科目の欠点をとる生徒が存在する。これらの生徒は進路についても危機意識が低く、取り組みも消極的である。基礎学力の定着は、これまでドリルやプリント学習および提出物の徹底などを中心に定着を図ってきたが、GTEC など生徒が取り組みやすい内容を組入れることにより、学習を「好き」になる方策を教科と連携して模索していきたい。
	(2) 規律ある生活態度の育成と問題行動ゼロへの取り組み	規範意識の徹底	スポーツを通して明るく健全な精神を養っている。安易な考えや行動が問題行動へと発展することに対し、若干名の生徒が気薄に捉えている。	規範意識を個でなく集団の一員として捉えることができる生徒の育成を目指す。生徒の自発的な行動も大切にし、手作りのルール徹底が行えるようにする。	昨年度と比較して問題行動数は減少した。特に1年生において問題行動が1つも無かったことは評価できる点である。	B	インターネットの問題が2件発生した。使用のモラルについてはこれまでも指導を図ってきたが、安易な行動を止めることができなかった。これまで以上にSNSやツイッター・ブログの利用をしないように声かけが必要である。
	(3) 豊かな人間性や健康な体を育成するための生徒の活動	自発的な取り組みと自己表現力	行動力のある生徒が多く在籍しているが、学校生活の中で活かしきれていない。	生徒の行動力や自発性を十分に考え、組織的に物事を進める大切さや達成することの喜びを感じることができるようにする。	学校行事や修学旅行等で生徒は自発的な取り組みをしていたが、コースのアプローチとして生徒の能力を伸ばすまでには至っていない。	D	コース学級部会や部活動ごとのリーダー会の活発化を図っていきたい。
	(4) 進路達成100%を目指すキャリア教育の推進	進路計画表と早期指導	平成23年度の進路達成率は98%と3年ぶりに100%を達成できなかったが、高い水準は維持している。	個々に進路計画表を作成し、早い段階から進路への意識付けや取り組みを行えるようにする。また、2年次からの小論文指導や3年次における面接、小論文指導を丁寧に行う。	進路指導担当や担任を中心に早期の進路指導を行った。1月末の段階で進路達成率95%で、一定の成果は収めている。	D	仙台大学優先入学制度の基準に達することができず、A0入試に切り替えた生徒が2名いた。仙台大学への進学希望を2年生の前半で決めていけば学習への取り組みもまた違ったものになっていたかもしれない。仙台大学の情報を進路指導部や父母教師会と連携して生徒・保護者にもっと発信していきたい。
	(5) 募集定員充足のための学科・コースの工夫改善	施設確保の工夫	現有施設を工夫しながら効率的に活用している。	外部施設の活用や仙台大学との連携を強化し、魅力ある学校環境の整備を行っていく。	体育の授業において新たに「明仙バスケットラボ」を活用した「剣道」、仙台リゾート&スポーツ専門学校の協力による「エアロビクス」などを導入し、現存施設の中で充実した魅力ある授業を展開することができた。	A	新グラウンドの有効的な活用方法を計画したい。
	(6) 安全・安心な学校生活のための防災意識の啓発	情報の一本化	東日本大震災では情報の混乱により、安全を確保できない場面があった。	学校および防災担当より出される指示や指導をクラス単位でスムーズに情報を共有できるようにマニュアル化の整備をする。	コースの特性を活かし、緊急時の連絡網として部活動ごとのコミュニティーでメールによる連絡を行っている。	D	防災マニュアルを円滑に遂行できるようにコース内の整備を行っていく。